

## 平成25年度 みどり清朋高等学校 第3回学校協議会 報告

日 時 平成26年2月10日(月) 午後2時～4時  
場 所 本校校長室  
出 席 者 三坂会長、中尾委員、定井委員、福井委員、高田委員、古川委員  
久木元校長、小河原教頭、島事務長、中村首席、渡辺教務部長、  
山本生徒指導部長

### 1 会長挨拶（三坂会長）

本日はご多用の中、委員の方々のご出席をたまわりお礼申し上げます。今年度最後の協議会として実りあるものにして行きたい。

### 2 校長挨拶

今年度の学校経営計画の取り組みについて説明を行いたい。また、教員への授業観察等、授業改善の取り組みや、本校を取り巻く種々の状況につきご報告させてもらう。それぞれにつき委員の皆様のご意見をたまわり、来年度の学校経営の参考にさせていただきたい。

### 3 協 議

#### (1) 平成25年度の取り組みについて（久木元校長から報告）

##### ①平成25年度の主な取り組み

##### ア)平成25年度 学校経営計画及び学校評価について

- ・「確かな学力の育成」については、数値目標に関しては概ね達成している。特に、「入学して良かった」という生徒の自己診断結果は、昨年度79%が83%に上昇し、今年度「学校経営推進費」を活用して導入したICT機器の授業での活用に関しては37%が51%となった。
- ・「進路指導の充実」に関しては、進路指導の満足度は昨年度71%から今年度74.9%への上昇を見たが、「家庭学習の時間の確保」の指標では、昨年度41%を50%にするという目標について46.1%に終わり、目標を達成できなかった。
- ・「生徒指導の充実」に関しては、昨年度同時期の遅刻数3733件が3143件へと減少し、部活動への取り組みが48%から55.3%に上昇した。
- ・「地域に信頼される魅力ある学校づくり」では、生徒の自己診断で地域とのかかわりについて昨年度の49%が54.2%に増え、HPへのアクセス数が昨年度に比べ43%増加した。

##### イ)平成26年度の取り組みへの追加項目

- ・25年度の取り組みを踏まえて、追加項目を設定したい。
- ・「確かな学力の育成」については、エリアの諸課題の検討、普通科専門コースの検討、ICT活用研究として他行の視察など。
- ・「進路指導の充実」に関しては、自学自習の習慣作りとして、1年次における教科別勉強方法の徹底指導。
- ・「生徒指導の充実」に関しては、「携帯・スマホ」指導の徹底。
- ・「地域に信頼される魅力ある学校づくり」では、PTAとの連携の強化、保護者向け「ケータイ連絡網」の加入率を80%に引き上げるなどの目標を設定する。

## ②学校教育自己診断の結果

### ア) 生徒用学校教育自己診断について

- ・ほぼ全ての項目で評価指標が向上した。ただ「担任の先生以外にも悩みを相談できる先生がいる」の項目については、昨年度の50.6%が50.5%となった。
- ・全体的に、学年による傾向がくっきりと分かれ、学年の進行とともに数字を持ち越す傾向が強い。

### イ) 保護者用学校教育自己診断について

- ・「みどり清朋高校に入学させてよかったと思っている」という回答が91.5%から93.1%となった。しかし、その他は広範囲にわたって昨年度より厳しい数字が並んだ。特に「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」、「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応してくれ、生徒の相談に親身になって応じてくれる」の指標について、15ポイント以上の低下をみた。対策が不可欠であると考えられる。
- ・上と同様なことが「PTA活動は活発である」という項目にもみられる。これは活動そのものの内容ではなく、広報のあり方にも問題があるのではないかと考えられる。

### ウ) 教職員用学校教育自己診断について

- ・本協議会からの指摘もあり、提出率が100%となった。
- ・ICT機器の授業での活用について、昨年度の36.6%から50.9%となった。上昇値が低いのは、機器の導入が時間的に遅れた影響もあると考えられる。
- ・「保護者・生徒のさまざまな相談に親身になって応じている」という指標に関して、84.7%が肯定的な回答を行っているが、保護者の数値とのかい離が目立っている。

## ③授業力向上の取り組みについて

### ア) 取り組み内容

- ・6月、11月に授業アンケートを実施。
- ・年2回の授業相互見学・・・「みどり清朋スタンダード」に基づくチェック

- ・ICT 機器の導入
- ・予備校講師による授業を見学

イ) 成果

- ・授業満足度（座学）が、平成 25 年度 1 回目の 64.2%から 69.7%に向上。

ウ) 課題

- ・生徒のアンケートへの回答態度。
- ・教員のアンケート結果を受けての姿勢の変化と育成の方向性
- ・生徒への「返し」方をどのようにするか。

エ) 今後の対応

- ・授業アンケートの改善・・・「居心地の良い授業」への満足感からの脱却等。
- ・授業相互見学の充実・・・教員相互のチェックの充実。
- ・ICT 機器の有効活用・・・研修、他校の実践の聞き取り。
- ・自主研修の活発化・・・出前講義の充実。

④平成 25 年度の主な取組について

ア) 確かな学力の育成

- ・ICT 機器の本格導入

イ) 学校行事

- ・初めての海外修学旅行を 5 期生がグアムで実施。
- ・地元ライオンズクラブとの連携による生徒の海外派遣

ウ) 学校運営

- ・若手・ミドル研修の充実
- ・分掌長の若返り（54 歳から 45 歳へ）
- ・職員会議の ICT 機器の活用による効率化

エ) 施設整備

- ・特別教室 3 室の空調機設置
- ・「地域連携コーナー」の設置

オ) 地域連携

- ・地元自治会との連携による「池島音楽祭」参加など
- ・東大阪中小企業家同友会との連携による求人案内

カ) P T A

- ・携帯連絡網の開設
- ・各種行事の開催（大学見学会・フィールドワーク等）

(2) 質疑内容

三坂委員長：報告を聞いていると、生徒が学校生活を生き生きと過ごすために多くの取り

組みがなされているように思う。これらを踏まえて、活発な意見交換の場としたい。

古川委員：保護者からの厳しめの評価については、保護者のあり方によっても受け取り方が違うと思われる。学校に興味を持っていれば、違った評価になるのではないか。

高田委員：生徒の授業評価に関しては居心地が良ければ満足度が高いという傾向があるのではないか。内容の充実とは別ものという気もする。内容を測る指標はないものか。検討が必要である。

定井委員：授業評価は個人のレベルでの評価である。学校全体の授業力を上げることにどう結びつけるかという視点も大切だと思う。

福井委員：そもそも、授業アンケートについて「満足度」の評価は聞き方が難しいというか、これで良いのかと思う。授業中よく寝ている生徒でも回答するのだから。

中尾委員：授業評価は、アンケートだけでなく観察も含めて複合的に見なければならぬ。また、授業が良いというだけでなく、生徒の力を引き、出す部分や自学自習を引き出す指導なども評価の観点になる。騒がしい授業については一部の学年であっても拡大の恐れがあり、早めの対応が必要だ。

三坂委員長：教育の現場では、教員の経験の段階や勤務校の様子で、各人の問題意識や課題も変わって来る。ただ、何が良い授業か、原点に返って考えることは大切。一方でアンケートの結果など見ると2年生が高評価だということは興味深い。学年のカラーはどのようなものか。

山本生徒指導部長：2年生は海外修学旅行の実施で、パスポート取得などの連絡を通して家庭との連絡が密だということはある。

渡辺教務部長：2年生は、入学時から生活指導のテコ入れがなされているのも事実である。

中村首席：教員の指導力の差が出る面もある。

定井委員：小中は多様な生徒を預かっている。また学年間での差も大きい。その差が出ないように、「みな池中の生徒だ」という意識付けを行っている。他に「ケータイ・スマホ」に関しては、本校では校内研修を実施している。教員間の共通理解が大切である。

福井委員：「ケータイ・スマホ」は小学校でも問題になっている。保護者とのやり取りの中で、互いの理解を深める取り組みをしている。これは大切だと思う。

三坂委員長：確かに共通認識を持つと変わってゆく。

高田委員：来年度1年生は1クラス増で8クラスということだが、学校の体制として受け入れ、指導は大丈夫なのか。

久木元校長：1クラス増で教員定数は2名増というルールになっている。現在の校内の指導体制を点検し、改善も踏まえて対応していくことになる。

三坂委員長：いろいろな状況の中で先生を育てるのも大切なことである。

福井委員：今回管理職から「教員への指導」の話が出るのは、誠実な態度だと思う。教員という仕事を選んだ限り、やらねばならないことはある。「(生徒への)しつけ」が必要ならしっかりすべき。これができないというのは、問題である。

中尾委員：教員生活が長くなると、原点に戻るといふ葛藤も必要なのではないか。自分の経験から言うと、その気持ちになれない、(校長の)指導が全くダメ、入らないというなら、現場を離れてもらうことも必要になる。

高田委員：自分自身の経験から言うと、民間では複数の人が多面的に評価をする。その結果、その人の待遇も異動のあり方もがらりと変わるというのが実情だ。

福井委員：先の話に戻ると、「学校へ行くのが楽しい」という回答で、学年間でこんな差があるというのは「何か」を示している。現在の2年生が手本になるのではないか。

三坂委員長：自分自身の経験から言うと、「みどり清朋」のような学校は難しい。多様な教員がいる。ところが、生徒が「やさしい」ので問題が表面化しにくい。

定井委員：評価に関して言えば、良い数字が出ていると思うが、その中には大きく上がるものもあれば、現状を維持するという指標もあるのではないか。常に全ての数字が向上し続けるということがあるのだろうか。また、1年の間の時期ごとに達成度がわかるものにしてみてはどうかと思う。

高田委員：クラブの加入率はどうなっているのだろうか。「野生力」というか、勉学では身につかない、生きる力を育みたいと思う。

山本生徒指導部長：3学年延べで57～8%である。軽音楽部、ダンス部の生徒が多い。また和太鼓部も活発に活動している。一般に指導者がいなくなると、部も衰退する傾向がある。

三坂委員長：長時間に渡り、審議をいただきありがとうございました。今回の議論の内容を来年度の学校運営に活かしていただきたい。

久木元校長：貴重な提言に感謝する。学校運営に活かしていきたい。

以上で質疑は終わり、来年度の日程を確認して散会した。